

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500115		
法人名	NPO法人 健寿会		
事業所名	グループホーム明香里		
所在地	熊本県天草市二浦町亀浦1066番地6		
自己評価作成日	令和 2年 11月 7日	評価結果市町村受理日	令和3年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和 2年 11月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの入居者と共用型デイの利用者が居心地のいい場所であることを大切に、できることをそれぞれの役割としながら生活されています。周辺は田んぼに囲まれ、畑で野菜を育て柿や大根などを使って保存食を作ったり、いただいたツワブキやタケノコの下ごしらえをしたりと日常の中に自然との関わりがあります。重度化が進む中、職員は一人一人との関わりを大事にし、「貴方の想いを叶えたい…」をスローガンにさまざまな取り組みを行なっています。集団体操や口腔発声嚥下訓練、脳トレ、個別に応じた機能訓練にも取り組んでいます。開設から10年が過ぎ、今年はコロナ渦で地域交流が十分にできていないものの、「喫茶明香里」の定着、地域行事への参加は恒例となりました。地域の明香里として地域貢献に全職員一丸となって取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた配色の平屋の建物は、周りの田園風景に溶け込み入居者にとって慣れ親しんだ日常が営まれている。ホームは理念の1つに「地域に支えられ 地域の明香里になりたい」と掲げ、地域との関係を大切にしている。地域の協力を得て開催される法人主催のグラウンドゴルフ大会、配食サービス・地域の奉仕活動や祭・小組合旅行などに地域の一員として入居者と一緒に参加して交流を深めている。新型コロナウイルス感染拡大に対応するため、法人で「衛生委員会」を立ち上げており、マニュアルを作成して法人全体で感染予防・対策に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関や廊下に掲示をして常に意識する事ができるようにしている。 勉強会などを通じ見直す機会を設け見直しをし、プランに添った支援ができるように努めている。 また理念は、入居者との関わりの中で行き詰まった時の道しるべとなっている。	管理者と職員は理念を実現するために、今年度の目標「実らせよう9人の想い(思いを)」と掲げて実践している。職員は入居者がその人らしくあるために、常に何が一番かを考えながら支援に努めている。管理者は日々のケアや看取りの対応等で、職員が目標を意識して丁寧に支援していることで、理念が共有されていることを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回にペースで実施している「喫茶・明香里」は地域の方々の協力もあり、恒例行事になっている。地区や老人会で開催される行事に職員も共に参加し、法人主催のグラウンドゴルフ大会を開催するなど地域との繋がりを大事にしている。 また、明香里だよりには地域の方を紹介する欄を設け、つながりを深める取り組みを行った。	「明香里だより」は、地域に回覧版で回したり、商店や居宅介護支援事業所などに配布している。紙面のコーナーで紹介した地域の人がホームを訪問するきっかけになったり、散歩の途中で声を掛けてくれるなど、日常的な交流が図られている。職員は、地域の草刈り奉仕作業や行事にも積極的に出向き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度、徘徊模擬訓練や小学生を対象に認知症サポーター養成講座を開催した。入居者と職員と一緒に、地域の行事に参加する機会が多く、認知症への理解は深まっていると考える。 今後は、認知症カフェの開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用状況・活動報告、地域との交流、安心相談員の受け入れや事故や苦情等の報告を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染予防の為、書面での報告会議を取り入れ意見用紙を用いて意見をいただいた。	運営推進会議は、入居者・家族代表・地域住民・学校関係者・医療関係者がメンバーとなり、2カ月に1度開催されている。ホームからの報告事項の後の討議では、メンバーから質問や意見が出しやすいように具体的に質問を投げかけるように工夫している。コロナ禍の対応について会議で検討し、ホームの方針の承認を得るなど行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターから運営推進会議への参加があり、ホームの状況を伝え助言・意見を得ている。 安心相談員の受け入れも行っている。 また、徘徊模擬訓練には、居宅事業所にも参加を呼びかけ、協力を得た。 毎月発行している明香里だよりは居宅の事業所に配布している。	市の担当者、地域包括支援センターとは会議や日頃の交流を通して事業所の実情や取り組みを積極的に伝え、情報の共有化を図っている。事業所と市担当者とは、お互いに相談できるよい関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム独自に2ヶ月に1回のペースで身体拘束について、勉強会を開催している。身体拘束委員会を中心に参加できなかった職員にも資料等を配布し周知している。研修内容は幅広く職員のストレスケアや身体拘束をしないケアとは何かなど話し合う事もあった。法人内の研修会でも身体拘束をテーマにあげ理解を深めるようにしている。 理事長・管理者・リーダーは、職員の精神的面を配慮し、困りごとや行き詰まった時の相談相手となり、ケアに努めている。	身体拘束委員会が中心となって、ホーム全体で拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は日々のケアを振り返り、また、職員同士、気づいた時はお互いに注意する関係ができています。外に出たい、帰りたい人には一緒に散歩したり家まで帰るなど寄り添い、拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてもホーム独自に勉強会を開催している。虐待防止推進委員会が主となっている。例えば食事介助の場面において目隠しをし、無言で介助した時どう感じるか疑似体験をしてみることもあった。虐待と気づかず行ってしまう行動に気づかされ、虐待防止につながっていると思われる。 入居者との関わりの中で、言葉や態度など、気づいた時には職員間で話し合う機会を作り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修テーマにあげ、学ぶ場を作っているが、十分な理解はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、分かりやすいように説明を行い家族の理解や納得を得て、契約を結んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回は家族会を実施している。 ご家族の来所時や電話連絡時に頂いた意見や要望は、ミーティングで職員間で共有している。運営推進会議には、ご家族代表の参加があり、意見交換の場となっている。	管理者は入居時に、「重要事項説明書」により、苦情等相談窓口の説明をしている。管理者や職員は、家族会や家族の来訪時に入居者の近況や気付きなどを積極的に伝えることで、日頃から話しやすい雰囲気心がけている。家族からの意見や要望はケース記録に記録して検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署会議で意見を出し合う場を設けている。また「こうしたい」という意見が出た場合、早急な対応に努めている。	部署会議や朝のミーティング時の意見や要望は記録して検討している。職員の意見から、より移乗支援し易い環境に改善・整備するなど、意見を反映する体制となっている。管理者は職員を認め、話しやすい職場環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と面談する機会が定期的にある。キャリアに応じた報酬制度が導入され、資格取得などの自己研鑽が給与に反映される為、向上心に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や部署内研修は、担当制で行っている。自己研鑽をし人前で発表するという機会は職員の自信へとつながっている。 また、今年は介護福祉士資格取得に向け法人主催で勉強会を開催した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、理事長と各部署の管理者・主任が集まり、利用状況の報告や困りごとの相談などを行なう会議が開催されており意見交換の場となっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居になった事に対する不安軽減に努め、ふと発せられる言葉からも思いを組みとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に要望などをお聞きしている。 入居後のご様子も電話や手紙でお伝えし、ご家族も安心して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までの間使用していたサービス事業所との交流や情報収集によりニーズを確認できるよう努めている。顔馴染みの関係性を断ち切ることができないよう対応している。入所判定会議の開催前に毎回、本人と面会し、状況の確認をする、本人や家族等必要とする支援を常に把握できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りを行いながら、できるところは自分でして頂き、家事活動や食事時の挨拶など役割をもって頂くようにしている。職員の呼び名は、兄ちゃん・姉ちゃん・時には奥さんと呼ばれる事もあり家庭的な雰囲気の中で過ごされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話(テレビ電話を含む)や手紙などを使って日々の状態の報告をしている。ホームに訪問があった時には、自室にてゆっくり過ごして頂くなど気軽に足を運んでもらえるように努めている。 遠方の家族から贈り物が届いた時には、本人様と直接電話口で話をさせていただき家族との絆を深めることができるように支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、お墓参りや地域で開催される行事に出向き、地域の人や親戚の人達と交流する機会をつくっている。	入居前から利用していた美容院、お彼岸のお寺参り、野菜作り、魚釣りなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう個別の支援をしている。また、ホームに入居して知り合った地域の人との新しい馴染みの関係が生まれている。職員は来訪者が又来たいと思えるような雰囲気作りを心がけている。毎年の年賀状作り、知人へのお礼の電話等関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りを行いながらできることは自分でして頂いている。家事活動や裁縫など得意なことを活かすことは、ホーム内での役割となっている。 入居者が集う居間には居場所をたくさん作り入居者同士の関わりがたくさんできる様な環境作りも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は面会に出かけたり、お亡くなりになられた後も四十九日にあたる日や初盆にお参りに行ったりしている。退所後も家族の訪問がありと、関係が保たれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から入居者と会話する機会を持つようにしている。日常の会話の中から希望や意向を汲み取り、職員間で把握し、思いに添えるよう実践に努めている。表現が困難な入居者にはは、表情などの変化やご家族からの情報大切にしながら把握に努めている。また記録に残すことで、職員間で共有しプラン作成に活かすようにしている。	おやつの時間や夕方のゆっくりしている時に、入居者の(～を食べたい。～へ行きたい。～したい等)の気持ちを多く聞くようにしている。意思疎通が困難な人には生活歴や家族からの情報を得て思いを知るようにしている。入居者に昔懐かしいにおいを感じて欲しいと、長い間働いていた漁港の工場付近に出掛ける等、職員は思いを込めて可能な外出支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、本人・家族・担当ケアマネジャー・使用していたサービス事業所などから情報の収集に努めている。 また、家族の面会時には家での様子や生活歴を尋ねながら支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子は、申し送りノートなどを活用し職員間で共有している。 夜間の様子は、朝のミーティング時に申し送りノートに記入している。ケース記録を確認し、情報の共有に努めているが、内容の把握や理解度については、職員で差がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を活かし定期的に見直しを行っている。プラン変更の必要があった時には見直しを行っている。	介護計画は、本人・家族の気持ちや要望、担当職員の気付きや意見をもとに作成しており、本人ができることを大切に、できることを奪わない過介護にならない計画作成を心がけている。モニタリング、見直しは定期的に行っているが、状況により問題が生じた場合には見直しをして、現状に即したプランの作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきはケース記録に記入しているが、記入内容について職員で差があり、後から見直した時に理解できない時がある。日勤・夜勤帯の様子も申し送りノートを使って職員間で情報の共有を行っている。本人の言葉なども記録に残し、介護計画作成時に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じ、外出の支援を行っている。また、法人の事業のひとつである配食サービスに入居者を同伴。地域支援の一助を入居者にも担っていただいている。地域の子供達・小学生との交流は利用者の楽しみの行事となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室や病院、郵便局など職員と一緒にいき、顔馴染みになった人達と会う事を楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続し、受診時には日々の状態を報告し、変化があった時には早めの受診に繋げている。病院によっては往診が受けられる体制にあり、終末期や重度化の際には家族と相談し主治医の変更など、適切な医療を受けられるように努めている。	本人・家族が希望するかかりつけ医への通院の同行を支援している。受診時には、バイタル、食事摂取状況、排泄状況などの情報を伝えて、適切な医療が受けられるよう配慮している。主治医からの説明や助言は家族にも伝え、情報の共有を図っている。緊急時や検査施行時には家族に同行を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師がいるが、勤務日数に限りがある為不在時には、併設する事業所の看護師と連携を図っている。その時々に必要な情報を共有し判断を仰ぐなど協働しながら入居者の支援にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを作成し情報の提供を行っている。入院時は定期的に見舞い、担当医や看護師から情報収集をしている。退院時には情報をいただくなど日頃から、気になる事を相談できる様な関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、本人・家族の思いや希望を尊重し、希望があった時にはホームでの看取りを支援している。看取りの取り組みは、運営推進会議でも報告をしている。	職員は勉強会で看取りについて話しあい、最後までその人がその人らしく在るために自分達ができることをは何なのかを考えて看取りの支援をしている。ホームでの看取りは多い。管理者は夜間でも駆けつける体制をとり、担当者と共に看取りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や職員間で話し合いを行い、急変時の対処法など学んでいる。急変する可能性があることも常に伝え、職員の不安軽減に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の避難訓練は、地域の消防団・住民の協力があり合同で開催している。 地域で開催される自主防災訓練に職員も共に参加し、簡易担架の作り方を学ぶなど防災についての意識づけに繋がっている。	年2回の防火避難訓練は消防団、近隣住民の参加を得て開催している。夜間訓練では協力者である地域の人実際に夜勤者と一緒に避難誘導訓練を行っている。また、新人職員は早期に避難訓練を体験し、避難方法が身につくよう計画している。管理者は自然災害に対して地域の地形を知りハザードマップで情報収集をする等して安全の確保に努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言を交えながら、丁寧な言葉かけに努めているが大声になることがある。 入居者の中には、自分の物と他の方の物の区別がつかず他者の物を持って行かれる事が多発した。そのようにならないためにはどうしたらいいか職員間で話し合い支援を行った。	人権・個人情報に関する勉強会をして職員への周知を図っている。特に排泄に関する声掛けなどでは、自分が言われたらどうかを念頭に置いて、本人の気持ちを大切にしたりさげないケアを心がけている。一人で過ごしたい人には無理強いすることなくゆっくり過ごせるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい飲み物や食べ物、外出など活動の参加については本人の意向を尋ね、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一日の流れを把握し、ペースに合わせ生活ができるよう配慮している。 外の景色を見て話されることから、散歩にでかけたりドライブに出かけてりすることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服と一緒に選び、本人の希望に添えるようにしている。起床後は鏡の前で髪をとかす・服を整えることができるようゆっくりと支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域から旬の物など差し入れがあった時には、献立を変更し、好きな食べ方(煮る・揚げるなど)で調理し、新鮮なうちに提供している。材料の下ごしらえや食後の片付けなどは利用者の役割となっている。	日曜日の「サンデーメニュー」では入居者のリクエストでメニューを決めて、食材購入から調理までを職員と入居者が一緒に行い、食事を楽しんでいる。咀嚼機能の低下した入居者に対しても、食べやすい形態にして好きな物を楽しんでもらえる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、一覧に表記し把握できるようにしている。 トロミつけ・刻み食などに対応し、摂取しやすいように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は声かけや誘導を行い、歯磨き等をおこなっている。自力ではできない場合は、イソジンを浸したガーゼを使って口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。日中は布パンツの着用、夜間は尿取りパットとの併用、ポータブルトイレの使用など個々の状態に合わせた支援している。	排泄支援では現在の機能を維持できるように支援している。トイレでの排泄を基本として、排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行ってトイレでの排泄が継続できるように支援している。夜間はポータブルトイレを使用している入居者も、排便はトイレでできるように本人の気持ちを大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便ができるように、朝は牛乳を取り入れ、適度な運動や腹部マッサージを行っている。個別に冷水やオリゴ糖の摂取にて排便を促す取り組みを実施中である。 排便の有無を確認し、個々のペースに応じ緩下剤を使用しながら排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居前の自宅での入浴時間に合わせ、2～3日に1回、夕食前後の時間帯で対応している。 季節に応じた菖蒲湯やゆず湯も、継続して行っている。	入浴は、今までの習慣や希望に添った時間帯にできるよう配慮している。入浴拒否のある入居者に対しては、無理強いすることなく着替えを促すことで、スムーズに入浴できたケースもある。職員は、入居者が楽しみながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝は、ゆっくりテレビを見て休まれる方もいる。使い慣れた寝具を使うなど安眠できるよう支援している。休みたい時には自室やリビングで自由に横になられている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケースにはお薬情報を保管し、確認ができるようにしている。飲み忘れがないようにチェック表を用い、服用前には日付・名前・いつの分かを声出し確認をしてから服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族やサービス事業所などから情報を得たり、生活歴などを参考にしたりしながら支援している。 裁縫や畑での作業など、活躍できる場を職員は提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や配食サービスへの同行など一日の中で外出する頻度は多い。季節に応じて、花見や祭り見学などの行事を開催し、本人が希望する外出支援を行なっている。	例年行っている家族との日帰り旅行・地域の小組合旅行は、コロナ禍のため中止したり、家族との面会は制限されている。しかし、地域近隣の散歩は車いす利用者も含め日常的に支援をしている。買い物・下田温泉の足湯・コスモス見学のドライブなど、お弁当を持参して外出しており、入居者の楽しみとなっている。	三密を避けながら、ウィズコロナの考えで、どのような外出支援が出来るのか対策が検討されており、今後は更に期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診や日用品購入のため、家族了承のもと預かり管理している。用途は、出納帳に記入し、毎月家族にコピーをとり送付している。 自分で小遣いを管理されている方もおり、必要時には職員と一緒に近くの商店まで買い物にでかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけることができない方は、職員が代わってかけ、お話しして頂いている。また、年賀状やパレンタインデーの家族へのお便りも年中行事として取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには、季節の花を生け季節感が感じられるようにしている。施設の周りは自然に囲まれ、差し込む日差しや風は心地よく、入居者からも「気持ちがいいですね」という言葉が聞かれている。	天井の高い開放感のある明るいリビングは床暖房となっており、足下が冷えやすい高齢者に対する配慮が伺えた。冬場には畳のスペースにコタツが置かれ、テーブルの上には道ばたで摘んだ草花や職員の家の庭で咲いた花が生けられて、季節を感じる事ができる。リビングでは「ことわざ遊び」をする入居者の近くで、目を閉じたまま耳を傾けている穏やか表情の入居者も見られ、安心できる心地よい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビング・テラスには、椅子やソファを配置している。お気に入りの場所で、会話をしたり音楽を聴いたりして楽しむように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家で使っていた馴染みの家具を設え、家族からの贈り物や写真などを飾り、本人が気持ちよく過ごせるよう工夫している。	居室の入口には職員手作りの明るい暖簾が掛けられ、プライバシーに配慮した工夫が見られる。職員は、本人と相談しながら壁掛け・いす・ソファなど一緒に部屋作りをしており、その人らしい落ち着ける居室となるよう支援している。長年使い慣れた鏡台で髪を整えている入居者の様子から、自分の部屋として居心地よく過ごしていることが伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口は自室だとわかるように写真を掲示したり、押し車を使用した歩行ができるように支援している。		